メータオ・クリニック支援の会（ＪＡＭ）
会報メール　第 137 号
〔2023 年 4 月発行〕

ＮＰＯ法人メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援いただき、誠にありがとうございます。
JAM より、2023 年 4 月号の会報をお送りします。

JAM は 2008 年 3 月に発足された NGO です。ビルマ／ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。
支援者の皆様へ JAM の最新の活動を２カ月に一度、会報メールにて発信いたします。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

＜目次＞

現地（メソト）から

国内から

国際保健医療協力のなかで（55）

編集後記

次号の予定

現地（メソト）から

【メソト：有高　奈々絵】

一年間の NGO 連携無償資金協力プロジェクトを終え、現在一時帰国中の有高です。

「タイのミャンマー人移民を対象とした新型コロナウイルス感染症に関する人道支援事業」では、メータオ・クリニックをはじめとした多くの民族医療団体、移民学校などのミャンマー人コミュニティに約 20,000,000 円相当の酸素濃縮器、新生児用保温器、分娩器具セット、マスクなどの医療物資、おむつや歯ブラシなどの衛生用品、トイレ、飲料水タンクなどの”水と衛生”関連物資を提供しました。また各民族医療団体の講師とともに、様々な職種の医療者延べ 23,211 人、および移民学校の先生・生徒・保護者、移民労働者延べ 1,861 人に、コロナなどに関するトレーニング及び健康教育を施行しました。ほかにもコミュニティへのアプローチとして、ローカルスタッフによるコロナに関するラジオ放送、JAM と親交の深い画家のマウンマウンティンさんのイラストをあしらった、ワクチンに関するポスター・パンフレットの作成、移民学校への配布も行いました。

プロジェクト中は、外務省とのやり取り、多額の予算の管理、英語での会議の司会など初めての経験ばかりで、戸惑うことも多い一年でした。しかし、苦労を上回る、わずかではあっても現地の人々になにがしかの貢献はできたという達成感と、なによりも多くの人々との貴重な出会いがありました。

ミャンマー人 2 名、タイ人 1 名（国籍は違えどみんなカレン族）、私を含め日本人 2 名のプロジェクトチーム、メータオ・クリニックのみならず Burma Medical Association、Back Pack Health Worker Team など民族医療団体のスタッフや研修生、遠隔地で何十年も伝統的出産介助者（産婆さん）として働いている方たち、ミャンマー人移民・避難民の支援をしている Overseas Irrawaddy Association, OIA、ミャンマー人移民労働者の権利を守る活動を行っている Arakan Workers’Organization などの市民団体、そして健康教育で訪問した移民学校の先生や生徒たち。それまで私の交友関係はメータオ・クリニックの中が主でしたが、プロジェクトを通じて、それぞれの持ち場で働く多彩な人々と知り合いました。何度も話を聞いたり、活動を共にしたり、また、時には結婚式に招いてもらったりする中で、言葉の壁や文化の違いはあっても、国境のミャンマー人のためにともに働いているという実感を得られたのが、大きな喜びでした。プロジェクトに参加、また支えてくださったすべての方に感謝しております。

写真上：プロジェクトチーム@アユタヤのナイトマーケット

そして、JAM は昨年 3 月、それまでの 1 年間にみなさまから東ビルマ人道支援として寄付していただいた総額 100 万円を現地に送金いたしました。その資金は、メソトのミャンマー人コミュニティと協力して、主にカレン州レケコー から逃れてきた方たちの国内避難民キャンプに食糧、洗剤などを提供するのに使用されました。

写真上：国内避難民キャンプへの食糧の運搬、配布

写真上：国内避難民キャンプへの食糧の運搬、配布

写真上：国内避難民キャンプへの食糧の運搬、配布

写真上：国内避難民キャンプへの食糧の運搬、配布

写真上：衣類用洗剤の運搬、配布。少量の衣類用洗剤で食器も身体も洗えます。

写真上：衣類用洗剤の運搬、配布。少量の衣類用洗剤で食器も身体も洗えます。

また、今年 3 月には、同じくそれまでの 1 年間にいただいた 349,000 円を現地に送金しました。これも国内避難民キャンプへの支援に充てられる予定です。

また、JAM は NPO 法人ミャンマー国際支援機構様から今年 2 月に 200,000 円、情報産業労働組合連合会様から 2021 年に続き今年 3 月にも 1,000,000 円のご寄付をいただきました。これらの資金は折を見て、現地に送金いたします。

皆さまからの息の長いご支援があってこそ、JAM は活動をつづけられます。私たちを支えてくださっているすべての皆様に、深く感謝申し上げます。

そしてミャンマーでは、さらに避難民を増加させる出来事が立て続けに起きています。メソトから 13km ほど北の国境沿いに、仏教徒主体のカレン系武装勢力 Border Guard Force,BGF が支配するシュウェココという町があり、クーデター後も中国系企業の運営するオンラインカジノが営業を続けています。BGF はカレン族ですが、カレン系最大の武装勢力である Karen National Liberation Army, KNLA がクリスチャン主導であることもあり、KNLA とは袂を分かち、同じく仏教徒主体の国軍傘下にあります。その BGF のシュウェココ

付近の拠点が 4 月 5 日、KNLA と人民防衛隊 People’s Defence Force, PDF の合同軍により攻撃されました。双方に多数の死傷者が出たのはもちろん、今まで戦闘がなかったところに戦闘が起きたため、4 月 7 日までの 3 日間で周辺住民 10,000 人以上が国境の川を渡ってタイ側のメソト及び周辺に避難しました。OIA によると、10 歳以下の子供が 30%を占めるとのことです。

写真上：シュウェココからタイ側へ避難する人々　（RFA Burma より）

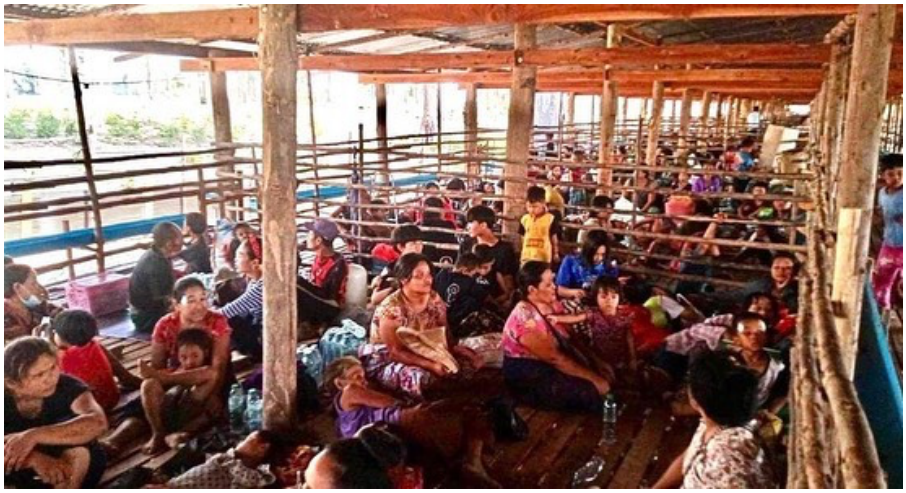
写真上：シュウェココからタイ側へ避難する人々　（The Irrawaddy より）

OIA のような市民団体、移民学校の団体などが避難してきた方たちに水や食料を届け、メータオ・クリニックや Karen Department of Health and Welfare などの民族医療団体が医薬品の提供や傷病者の搬送を担っています。KNLA は独立や自治の拡大を求めて過去 70 年間のほとんどの期間、国軍と戦闘を続けてきました。どちらの勢力が紛争を仕掛けたにせよ、大きな紛争のたびに近隣の住民はタイ側に逃れ、すでにタイに暮らしている同胞たちが彼らの避難生活を支えるという歴史を繰りかえしているのです。

しかし、タイは公式にはミャンマーからの避難民を受け入れておらず、戦闘が激しい時に越

境するのは認めていますが、戦闘が収まったらすぐに帰還を促すことを原則としています。

今回は短期間で発生した大量の避難民に対し、タイ当局がメソト及び周辺の学校、修道院、とうもろこし倉庫、やぎ小屋、牛小屋など 15 か所に緊急キャンプを設置、約 10,000 人を収容しました。また、これまで国連機関、地元の市民団体や NGO が避難民に接触するのを禁止していましたが、今回初めて、彼らが避難民に支援物資を配布するのを認めました。タイ当局が避難民への寄付を、ビルマ語とタイ語で募っているという情報もあります。



写真上：家畜小屋を転用した緊急キャンプ（Free Burma Rangers FB より引用）

写真上：タイ当局が寄付を募るビルマ語とタイ語の看板

さらに一週間後の 4 月 11 日には、数か月にわたり激しい戦闘の続いているミャンマー北西部ザガイン地方域のパ・ジ・ギ村で、民主派の事務所のオープニングセレモニーに集まった人々を国軍が 15 分間にわたって空爆したというニュースが飛び込んで来ました。この村では戦闘は起きていなかったようで、セレモニーには子供を含む市民約 300 人が参加してお

り、BBC Burma などによると、14 日の時点で死者は少なくとも 170 人にのぼるとのことです。

写真上：空爆されたザガインのパ・ジ・ギ村（The Irrawaddy より引用）

この件は、国際的にも広く報道され非難されましたが、なによりミャンマー人の中で大きな怒りと悲しみを引き起こしました。多くの友人、知人が Facebook のプロフィール写真を真っ黒にしたり、生々しい写真をシェアしたりすることで、抗議を表明しました。4 月 13 日から 16 日はビルマ暦のお正月（水かけ祭り、ティンジャン）でしたが、メータオ・クリニックのあるスタッフは、ティンジャンを祝う気持ちになれない、祖国のために祈る癒しと救済の宗教行事に参加すると言っていました。

圧倒的な暴力の前に私たちはほぼ無力です。私たちが避難民に対して行っている”人道支援”は、出血しているけが人に対し、出血箇所の治療をせずにただ外からガーゼを当てて出血を減らそうとしているだけに等しいと、よく感じます。原因が断たれなければ、避難民が減ることはないのです。しかし、すぐに原因を断つことができない以上、今、自分たちのできることをやるしかないと、粛々と働くメソトの医療団体や支援団体を見て学びました。今後もみなさまのご協力を得て、彼らとともに、苦境にあるミャンマーの人々に役立つ活動を続けていきたいと考えています。

国内から

【神谷　友子】

みなさまこんにちは。JAM 日本事務局の神谷です。2015-2017 年に JAM の現地派遣員とし

て、メータオ・クリニックで活動させて頂きました。会員の皆様には日頃よりあたたかいご支援を賜りいつもありがとうございます。先日は、東山さんの帰国報告会に参加して、ミャンマー国境地域の現状を知り、心が痛むばかりです。

任期終了後に帰国してからは、地域での仕事に携わっており、現在は、埼玉県内にある訪問看護事業所で訪問看護の仕事をしています。訪問看護では自宅で療養されている方へ、訪問して看護ケアを行っています。最近では、コロナ禍となり、病院がコロナ対応で診療や入院対応が困難であったり、面会制限があるために自宅での療養を選ぶ方が以前より増えているようです。難病で寝たきりの方、肺炎などで食事がとれずに点滴治療をする方、末期がんで最期の時間を家族とゆっくり過ごされている方、いろいろな方がいらっしゃいます。メータオ・クリニックでスタッフへの看護研修を行っていたときも、やはり同じような状況の患者さんが入院されていて、どこにいてもやはり看護が必要な人のケアは同じような、生きていくための必要な基本的なことが求められているのだなと感じます。メータオ・クリニックで働いて実務経験を積んだスタッフがそれぞれのミャンマーの故郷に戻り、地域の人々の生活の支えとなっていることを頼もしく感じるとともに、メータオ・クリニックの存在の意義があると思いました。

また、年に１回、地元の看護学生さんに国際看護の講義でお話させていただく機会があり、世界に暮らす人々の状況を知ったり考えるきっかけになってくれたらと思いながら話をしています。

ミャンマー国内は、未だに安心して生活できる状況ではなく、国境を超えてタイ側に避難してくるミャンマー人が増えていると聞きます。私が現地に居た頃よりも状況は悪化しています。メータオ・クリニックの支援を通じて、ミャンマーの人々の健康と生活を守ることができるよう、引き続きどうぞご支援よろしくお願いいたします。
世界のどこにいても、みんなが安心して楽しく穏やかに生きることができますように。

☆ JAM 会報の「国内から」のコーナーに寄稿してくださる会員様を募集しています！☆

現在、このコーナーは、JAM スタッフが交代で書いてきていましたが、2023 年の会報から、賛助会員の皆様との交流を目的に会員様からの寄稿も募集することにしました。
メータオ・クリニックや JAM との出会いに関するエピソードなどなど、ぜひお聞かせください。
ご興味のある方は、support@japanmaetao.org（日本事務局宛）までお気軽にご連絡ください。

国際保健医療協力のなかで（55）

【小林　潤】

JAM9 代目派遣員東山さんの帰国報告会が東京で行われた。久々に対面での集まりとなり、楽しく且つ有意義な時間となった。東山さんの発表は、想像していた以上に心に響く内容で

あったことは、私だけが感じたものではなかっただろう。外務省からの支援を受けて大型のプロジェクトのロジスティクスを担当したため、作業療法士としてのスキルを活かせる活動で直接医療を行うことは少なかったかもしれない。しかし、医療の仕事を直接行う以上の大きな学びを聞かせてもらえたと感慨深かった。

まず「必要なものが必要な場所に届くことの難しさを超えてやり抜くこと」、そして、そこには「多くの人、機関との共同作業の必要性があること」が語られた。当たり前のことのようだが、これの二つの言葉には、援助のありかたが凝縮されている。1970 年代に開始されたインドシナ難民に対する援助から始まった、日本の保健医療分野の活動で共通の課題となってきたものであろう。本当に、必要なものが、必要な場所に届いたのであろうか？必要なものとは、時に食料や医薬品の物資であったり、治療といった医療サービス、病気の予防スキルといった保健サービスであったり、と様々だが、本当に必要なものは何なのか？その必要なものが必要な場所に届いているのだろうか？これは、常に確認しながら、事業を実施する必要は考えられ続けていると思う。逆にいうと、時には必要でない援助が行われ、必要な場所に届かない援助が行われてきたともいえる。

次に「医療だけでは解決せず、福祉、教育さらには他の開発との協力が必須なこと。」が報告された。なぜ、ペシャワール会の中村先生が、多くの後輩のロールモデルとなっているかというと、まさにこのことを感じただけでなく自ら実践したことにあると私は考えている。ブルドーザーを自ら運転する中村先生の動画をみたことがあるだろうか。低栄養によって種々の感染を繰り返す患者を治療しつづけるなかで、その根本原因である栄養改善を支援の主軸に置き換えていかれた。灌漑用水を建設し、食料の自給による栄養改善を実現して見せたのである。

メータオ・クリニックも医療を超えて実に多くの活動を、協力機関と実施してきている。まず出生証明書を出すことによって基本的人権の保護のよりどころとしている。我々には当たり前の戸籍が難民にはないからである。存在が証明されなければ、容易に人身売買の対象になりえる。また、初等教育から高校の支援まで他機関と協力して展開している。教育を受けられないことは、基本的人権が奪われることになり、多くの子供達は健康的生活を送るのも難しくなるのは残念ながら真実である。さらには、メータオ・クリニックでは高校卒業後の進路を作ることも、具体的な解決策がない中、模索を続けている。

最後に「援助を受ける側の人には生活があり、それに寄り添い見るべきなこと。」を愛が必要ということで東山さんは説明していたように感じた。時に援助とは勝手なもので、援助するほうの自己満足で終わることも多々あるのが現実である。しかし、援助を受ける側の人の生活に寄り添って行われた行為に対しては、決して「偽善」という言葉は浴びせられないだろう。

情報革命が凄い勢いで進んでいて、世界中の情報が苦労なく入手できるようになった。しかしながら「国際保健のプロになるには、現地に一年は、いるべき」ということは変わらない真実ということを、東山さんの報告で再度確認させられた。本当に必要なものを必要な場所・人に届けることができ、多くの人と協調して作業ができる。さらにそこに偽善の目が向けられない支援を実施できる人が本当のプロだと思う。

編集後記

ゴールデンウイーク前の慌ただしさの中、気づけば春も終わりを迎えようとしています。私は、700 床ある総合病院に臨床検査技師として勤務して 4 年目になりました。保健学科の学生だったときに、JAM の会報の編集のお手伝いを始めてからは 5 年経ちます。

最近は、仕事が終わるとへとへとになって夜 9 時台に布団に入っていますが、今日は珍しく夜遅くまで編集作業をしています。働いていると毎日を過ごすことに意識が集中してしまいますが、こんなふうに国境に思いを馳せる時間もいいなあと思ったりします。

次号の予定

次号は、6 月下旬ごろ配信の予定です。

最新情報は、インスタ、ツイッター、ホームページでも、随時更新していきますのでぜひ、お時間があるときにご覧ください。

メータオ・クリニック支援の会(JAM)の活動を支援して下さり、心より御礼を申し上げます。JAM の活動は皆さまからの温かい寄付によって支えられ、院内感染予防活動、移民学校での啓発活動など様々なプロジェクト・設備投資を実施しています。
支援の輪が広がっていけるよう、どうぞ当会の Facebook もフォローして「いいね」や「リツイート」で応援してください。

当会では、都度の支援金の受け入れとともに、「1 日 10 円からの支援」を基本とし、継続的なご支援をお願いする賛助会員制度を用意しております。
【一般会員】3,650 円/年　　【学生会員】1,825 円/年　　【法人会員】36,500 円/年
当会ホームページにアクセスしていただき、お申し込みフォームから会員登録のうえ、指定の口座へのお振込をしていただきますと、賛助会員として登録させていただきます。詳しくは当会ホームページをご覧ください。

◇◆◇

ＮＰＯ法人メータオ・クリニック支援の会
Japan Association for Mae Tao Clinic (JAM)

日本事務局宛て Ｅ メール	support@japanmaetao.org
JAM ウェブサイト	www.japanmaetao.org
Facebook	Japan Association for Mae Tao Clinic (JAM)　で検索して下さい。 https://www.facebook.com/JapanAssociationforMaeTaoClinic/
Instagram	https://www.instagram.com/japan_association_maetaoclinic/

Twitter	https://twitter.com/japanmaetao

※掲載されている全ての内容、文章の無断転載を禁止します。

◇◆◇